

教育フォーラムEF-3

チーム基盤型学習 (TBL) がもたらす能動的相補型学習

—薬学教育における実践とその成果

Team-Based Learning (TBL) Bring Active and Complementary Learning

— Practice and Outcomes in Pharmacy Education

安原 智久¹, 小佐野 博史²

¹摂南大薬, ²帝京大薬

1970年代に Michaelsen 博士により編み出されたチーム基盤型学習 (Team-Based Learning, TBL) は、究極的には、教員一人で200人以上の学生に効果的な能動型学習をもたらす理論と経験に裏打ちされた学習方略である。TBLには、自身とグループの成績に対する責任感を醸成することで自己学習を促進し、自発的な学生間相互教育を生み出す仕掛けが組み込まれている。TBLを成功に導くためには、チームで立ち向かうことで解決に至る適切な難易度の問題設定と厳密な評価系が必須である。TBLの場で個々の学生が示した知識・技能・態度は、個人およびグループ準備確認試験、ピア評価により測定される。特に、ピア評価は教員が観察しきれないチーム内での学生のパフォーマンスを測定する重要な評価となる。

参加型の学習方略の実践が求められながら、教育における人的資源が十分ではない現在の薬学教育の問題に、TBLは一つの解決策を提供する。その中では、次世代の薬剤師に求められる資質である、コミュニケーション、相互尊重、自己研鑽、次世代を担う人材の育成等の能力を身につけさせることも可能である。本教育フォーラムでは、TBLの理論と概要の紹介、統合型教育、参加型実習、基礎化学の教育に活かしたTBLの実践例の報告を行い、TBLやピア評価がもたらす教育効果について討論する。